

2022年9月1日～2023年12月31日の間に 岡山大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科が共催した市民公開講座を 受講された方及びご家族の方へ

—「地域における高齢者および保健業務担当者の難聴に関する実態調査」への ご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、岡山大学病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師 濱本 真一
研究分担者 川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 特任教授 假谷 伸
川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 臨床助教 藤田 尚晃
川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 臨床助教 木下 将

1. 研究の概要

高齢者の難聴は認知症の最大のリスクファクターであることが明らかとなり、世界保健機関（WHO）は、適時に聴力のスクリーニング検査を実施した上での補聴器の早期装用を推奨しています。しかし、本邦においては、学童や就労者は各施設における定期健診で聴力検査を受けることができますが、各自治体が行っている高齢者集団健診の検査項目には聴力検査は項目として取り入れられていません。このため、未就労の高齢者の方の聴力スクリーニング検査は実施されていません。また、難聴によってもたらされる多くの問題点について、各自治体の保健業務担当者の認識が薄く、その結果として高齢者の難聴に対する対策が不十分であると報告されています。本調査では、難聴の精査・加療目的で医療機関を受診していない高齢者も含む一般高齢市民の難聴に関する認識と聴力との関連、および、地方自治体等の保健業務担当者における難聴に対する認識を評価することを目的とします。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2022年9月1日～2023年12月31日の間に岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科が共催した市民公開講座や住民集会の参加者の方、および、保健業務担当者の方のうち「地域における高齢者および保健業務担当者の難聴に関する実態調査」の研究に参加された方を対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

情報の利用または提供開始予定日：研究機関の長の許可日から1週間後

3) 研究方法

研究者がアンケート情報をもとに参加者の皆様の難聴に関する関心度や、難聴の自覚の有無と聴力検査の結果に関する分析を行います。

4) 使用する<情報>の種類

調査内容：年齢、性別、聴こえに関連した項目（周囲からの難聴の指摘の有無、難聴の自覚の有無）、難聴に対する医療介入の有無、補聴器などの聴覚補助器具に関連した項目（使用率、定期的な調整の有無）、純音聴力検査の結果

5) 外部への情報の提供

この研究に使用する情報は、あなたを直ちに特定される情報は削除し、川崎医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学へ提供させていただきます。

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

今回の研究で用いるアンケートは無記名であるため、個人が特定されることはありません。また、アンケートの提出後は個人が特定できない為、同意撤回が出来ませんのでご了承ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。この研究結果は学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2025年12月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
氏名：菅谷明子
電話：086-235-7307
ファックス：086-235-7308

<研究組織>

研究代表機関名：川崎医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
研究代表責任者：濱本 真一
既存資料・情報の提供のみを行う機関：岡山大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 機関長名：前田 嘉信

3. 資金と利益相反

この研究は、川崎医科大学の学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。